

『たかが補習校 されど補習校』 雑感

上海日本人学校 田川 暁

補習授業校の役割

現地校に通学する児童生徒が、再び日本国内の学校に編入した際にスムーズに適応できるよう、基幹教科の基礎的・基本的知識・技能および日本の学校文化を、日本語によって学習する教育施設である。

※ 子ども側から見ると

- 現地校でのストレス発散の場である
- 日本語で自由に会話でき、日本人の友達に会える場所である
- 親が行けと言うから通っている学校である

年間40回の授業日

補習校では、日本の教科書を使って学習を進めているが、年間40日の授業日では学習する内容の精選・厳選が必要である。

例えば、中学校1年生の数学は、年間105時間が標準時間である。これを40時間で行うことは無理である。授業日に2時間授業をしても足りない。

補習授業校で、何をしっかりと身につけさせるのかを保護者・子どもにわからせる必要がある。『学校でできること』『保護者、家庭でやるべきこと』を明確にすることが大切である。補習校が欲張って、すべてを行おうとすると中途半端に終わってしまうことが多い。

補習授業校では、学校の学習と家庭での学習が、五分五分の重要さをもっていることを認識する。宿題も多くなるのは当然である。(子どもたちにとっては金曜日が魔の金曜日になっても仕方ない)

保護者への啓発

補習校で行うことをわかりやすく保護者に説明する責任がある。理解した上で、保護者が我が子を入学させるのである。日本の学校や在外の日本人学校とはおかれている状況が違うということを認識させる必要がある。

補習授業校は、運営委員会・保護者・学校関係者の手作りの学校である。運営委員会は学校運営を担い、校長は教育を担い、保護者・家庭は運営・教育活動をサポートするのである。毎週、学校では保護者ボランティアが活躍するのである。

地域に生きる補習校

地域の協力なしに、補習校の運営は考えられない。借用校舎・行事等々、地域

社会の協力が得られる補習校でなければならない。

中国当局とのパイプが太ければ太いほど運営がスムーズに行く。

将来的には、

- 中国人子女の日本語コース開設
- 日本文化紹介行事（オープンスクール）
- 現地校との連携による単位認定（補習校の授業を現地校での単位と認定してもらう）
- 高等部・幼稚部の設置（必要に応じて）
- 補習校から日本人学校へ変更

世界に羽ばたく子どもたち

補習校を卒業した子どもたちが、将来、豊かな国際感覚を身につけ、社会貢献できるような素地を育てるのが補習校の役割ではないでしょうか。